

令和3年4月13日

報道機関 各位

富山県初！化学療法による脱毛を予防

頭皮冷却システムの導入

令和3年3月より、乳がん先端治療・乳房再建センターに化学療法（抗がん剤治療）による脱毛を予防する頭皮冷却システム（PAXMAN Scalp Cooling システム）が導入されました。乳がんの治療では手術前後に抗がん剤治療を要する方が約3割程度おられます。抗がん剤の副作用として苦痛度のトップが脱毛です。嘔吐や発熱は薬などの補助療法でかなり抑えることができるようになりましたが、脱毛は抑えることができない副作用の1つで、乳がん治療として化学療法を行うと、ほぼ100%脱毛が発生し、多くの方がウィッグを用いることとなります。また、治療後2年以上たっても頭髪が回復せず、引き続きウィッグを利用しなければならないケースも15%程度あることがわかっています。中には脱毛が嫌で必要な抗がん剤の治療を避ける方もおられます。

当センターでは少しでも化学療法時の脱毛を抑えるためにPAXMAN Scalp Cooling システムを導入いたしました。このシステムを使用することにより約3割程度の患者さんがウィッグ不要となり、また脱毛が発生しウィッグを必要とする場合でも早期にウィッグ離脱が可能になるとされています。なお、化学療法の初回導入時から本システムの使用が必要なため、すでに化学療法を行っていた場合、途中から使用しても効果は期待できません。

乳がんは40代がピークであり化学療法中や治療後の脱毛は患者さんのQOLや治療意欲を著しく低下させますので、このシステムで少しでも脱毛を予防しQOLが改善することを期待しております。本システムは富山県で初めての導入となります。

なお、本システム導入に際し記者会見を行う予定はありませんのでご了承ください。

PAXMAN Scalp Cooling システムの特徴

抗がん剤投与前にクーリングキャップを装着して頭皮全体を冷却します。頭皮冷却によって毛細血管が収縮するため、抗がん剤が毛髪に届きにくくなり脱毛が抑えられます。また、冷却によって頭の毛母細胞の代謝が低下することで抗がん剤による細胞障害が減弱すると考えられています。

国内臨床試験（HOPE 試験）では PAXMAN Scalp Cooling システムを使用した患者と使用しなかった患者の脱毛を比較評価したところ、システム不使用群では全例脱毛が発生したのに対し、システム使用群では 26.7% で脱毛が発生しなかったと報告されています。また、脱毛が発生した場合でもシステム使用群では早期にウィッグの離脱が可能でありました。

本システムは外来化学療法センターで行い、使用方法は抗がん剤の投与前 30 分から投与終了後 90 分まで装着します。

医療サービスとして提供し、使用料金は保険診療外（自費）になります。個人で使用する冷却キャップが約 8 万円、機器使用料が約 1 万円かかります。



【本件に関する問い合わせ先】

富山大学病院事務部病院総務課 大町
TEL. 076-434-7019